

2026年1月12日

課題名：Campylobacter jejuni 腸炎における菌血症合併の頻度と
予後：後方視的研究

◆研究の目的と概要◆

Campylobacter jejuni（以下、C. jejuni）は、細菌性腸炎の原因として頻度の高い病原菌ですが、腸炎から菌血症へ進展する頻度や、その予後については十分に明らかになっていません。

本研究では、当院で診断された C. jejuni 腸炎患者さんを対象として、菌血症を合併する頻度、その関連因子、ならびに菌血症を合併した患者さんの当院での経過を後ろ向きに検討します。本研究により、C. jejuni 腸炎診療において菌血症の可能性を考慮した、より適切な診療に役立つ知見を得ることを目的としています。

◆対象となる患者さん◆

2015年1月から2024年12月までの間に、当院において C. jejuni 腸炎と診断された18歳以上の方。

◆研究に使用される情報・試料◆

本研究では、以下の診療録情報を使用します。

・年齢、性別、基礎疾患（高血圧症、肝硬変、慢性腎臓病、糖尿病、自己免疫疾患、血液腫瘍、固形臓器癌、慢性呼吸不全）、便培養検査結果、血液培養検査結果、菌血症を合併した場合の院内予後（死亡／生存）。

◆試料・情報の研究利用開始日◆

2026年3月1日

◆研究方法◆

本研究は、当院の診療録および検査データを用いた後ろ向き観察研究です。便培養検査で C. jejuni が検出された患者さんを全例対象として、年齢・性別・基礎疾患などの背景情報を収集します。そのうち、便培養検査日前後3日以内に血液培養検査が実施されている患者さんを対象とし、菌血症合併の有無や臨床経過について解析します。

-
- * 研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる情報は利用しません。
 - * 本研究に関するお問い合わせや、カルテ情報の利用についてご了承いただけない場合、以下の問い合わせ先までメールでご連絡ください。ただし、解析中または、既に学会等で発表されたデータについては、削除できないことがありますことをご了承ください。

【問い合わせ先】

公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院

集中治療科 研究責任者 藤永 潤

E-mail: kenkyu★kchnet.or.jp (臨床研究センター)

(★を@に変換して使用してください)

この研究課題で利用する残余検体・診療情報等の利用については、医の倫理委員会によって当該既存試料を用いなければ研究の実施が困難であるとの理由が認められ、倫理的観点及び科学的観点から実施についての承認、また当院院長の許可が得られています。

※【問い合わせ先】では、次の事項について受け付けています。

- 研究計画書および研究の方法に関する資料の閲覧（又は入手）ならびにその方法
（他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護等に支障がない範囲内に限られます。）
- 研究対象者の個人情報についての開示およびその手続
- 研究対象者の個人情報についての利用目的の通知
- 研究対象者の個人情報の開示、訂正等、利用停止等について、請求に応じられない場合にはその理由の説明